

善通寺 御影堂

御影堂は善通寺の西側を占める西院の中心に位置しています。善通寺の開祖であり、日本の歴史において極めて大きな影響を持つ仏教僧である空海は、774年に地方の豪族である佐伯家に生を受けました。御影堂は佐伯家の先祖代々の屋敷があった場所に建てられています。西院はそもそも鎌倉時代（1185-1333）に空海を称え、空海を祖とする真言宗の信者たちが彼の生誕の地で祈りを捧げられるようにするために建てられたものです。現在の御影堂は小さな奥伝の周りに1831年に建てられたもので、そこまで古いものではありません。この奥殿は空海がこの世に生を受けた時に初めて泣き声をあげた部屋の上に位置していると言われていいます。奥殿は一般には公開されていませんが、参拝者はその真下を歩いていくことができます。この際、御影堂の真下にある真っ暗な廊下、戒壇巡りを通っていきます。戒壇巡りの完全な暗闇の中へ入っていくと、参拝者は左手を左側の壁に這わせてバランスを取り、慎重に進んでいくように求められます。まったく光のない空間は瞑想に耽るのには最適で、500円の入場料の価値はある体験となっています。戒壇巡りのチケットがあれば善通寺の宝物庫へも入ることができ、展示された様々な芸術品や貴重な品物を眺めることができます。